

「千手井」 又辨慶水ともいふ西塔武藏坊千手堂に千日參籠す此水を毎日關仰とせしより此名あり平相國清盛熱病の時此水を石船に湛て沐すといへり
「淨土院」 傳教大師の廟堂なり最澄と號す俗姓は三津氏江州志賀郡の人なり

西塔 寶幢院と號す四塔の東谷に九坊南谷に十坊北谷に十二坊あり淨土院を下りて谷川を堺とす

「法華堂」 本尊は普賢菩薩なり
「轉法輪堂」 本尊は釋迦文殊四天王承和元年勅によつて延秀圓澄造立す
「常行堂」 阿彌陀佛を安置す寛平五年靜觀僧正建立なり

「椿堂」 如意輪觀音を安置す山門建立以前聖德太子此山に登り勝地を求めて此本尊を安置す又椿の御杖を伽藍の傍に立置れけるが後に枝葉茂りて大木となる年經て荒廢に及び今小堂あり

「寶幢院」 惠亮和尚の廟堂なり
「相輪堂」 王城の東北にあたる印にして傳教大師の

銘あり俗に鬼門柱といふ高さ四丈五尺九層あり十一の寶鏝を懸る弘仁十一年歲次庚子九月十一日とあり
「青龍寺」 黒谷にあり本尊文殊十一面觀音淨名居士を安置す法然上人此所に住す木像あり俗に元黒谷といふ

横川 楞嚴院と號す十四坊あり

「中堂」 本尊聖觀音は慈覺大師の作脇士は毘沙門不動なり
「慈惠大師廟」 釋良源といふ永觀三年正月三日入寂す此ゆゑに元三大師といふ俗姓は木津氏にして江州淺井郡の人なり大師の影像飯室横川御園に就て安置す都鄙の詣人日々に多くありて靈維新なり

「四季講堂」 五部大乘四季に講談あり故に名とす
「大師堂」 村上天皇の御願にして慈惠大師の開基なり彌勒如意輪不動山王を安置す

「觀音堂」 華表岡又不二門といふ願諸來向者皆不二門の額は慈覺大師の筆なり首楞嚴院に掲ぐる

「慈忍和尚廟」 横川小聖と號す九條殿師輔卿の十男なり

「飯室」 横川の別所なり寶滿寺といふ不動堂あり

「安樂院」 惠心僧都住給ふ所なり本尊阿彌陀佛惠心の作又惠心の像を安置す院内に菩提樹ありこれは惠心僧都の製作し給ふ往生要集を宋國へ贈られしとき四明の知禮禪師披見して隨喜し報酬のため此菩提樹一株を渡す惠心これを植給へば日々に枝葉繁茂しけり元龜の兵火に滅しける所十有九年を経て此樹に忽ち枝芽出て再生す山門是より再興に及ぶ故に後鑑の樹と謂べし當院に叡桓僧都のすませ給ひ法華經一萬部精誦ありし時釋迦普賢の尊像忽然として壇上に顯れ感見すといふ

「無動寺」 或は無懺寺に作る此所に坊舎十三坊あり

「不動堂」 相應和尚の作なり染殿の皇后に靈鬼の障碍ありし時相應和尚此の不動尊に祈り給ふ日を経ずして靈鬼退散す故に染殿后より此所を御建立ありしなり

「大乘院」 慈鎮和尚住給ひし所なり此院のうへに墳墓あり又本願寺の祖親鸞聖人もこゝに住給ひ天台の學問ありしなり當院は山中第一の絶景なり山王七社の中客人宮は此谷の守護神なり

「辨財天」 竹生島より此地に白蛇と化して影向ありしなり宮のうしろに影向石あり親鸞聖人弘法の爲此宮に祈齋ありしとぞ

「雲母坂不動堂」 本尊不動明王は傳教大師の作なり雲母寺の額は石川丈山の筆とぞ

「南光坊」 戒壇堂の傍にあり慈眼大師と號す日光御門主の御本坊なり

「四明嶽」 叡岳第一の峰なり雲母坂より登りて右に小徑あり山上に石佛を安置す是れ山城近江の堺なり絶頂より快晴の日は西海の淡路島四國の海路幽に見ゆ

「五百羅漢石」 道より西のかた谷の向ふに岩石幾許ならびありむかし五百の賢聖習定の所なり

「阿字休息峯」 路の傍に切石あり北嶺回峰の行者王城加持修行の所なり

「釋迦多寶佛」 これ山城近江の境なり西は八瀬の里へくだる路あり東は横川へいたる

「波母山」 又小比叡ともいふ横川へ行左の方山の半腹に大巖あり神代に白髭明神釣を垂し所なりとぞ

「寒嵐嶽」 華表岡より西の高峯をいふなり

「華表岡」 又不二門といふ是より横川の分地なり

「阿彌陀峰」 鳥井の下に立て西を臨めば二峰あり昔惠心僧都彌陀來迎を拜せし所なり又峰越彌陀ともいふなり

「蟻塚」 路のかたはらに石垣を築く小徑にあり相應和尚此道を通りし時大雨頻に降て前路を崩陥す時に山蟻數萬集りて暫時に路を開きて往來をなさしむ和尚奇異の思ひをなして此所に其印を築て蟻塚と號す

ゆるなり

「滿土混論辻」 大講堂を東へ下りて四辻ありこれをいふ傳教大師在世の時大黒天出現の地なり大黒堂あり是より南へ行けば南谷無動寺の通路なり東へ行けば東谷より坂本へ下るなり寶地坊證眞の舊跡花王院あり北へ行ば根本中堂の參路なり

「登天石」 東塔の南谷遺教坊の門前にあり此ほとりに法性坊尊意僧正の舊跡あり昔神此石を踏で登天したまふといふ

「常光坊」 此寺の前は絶景にして中秋の月佳境なり又此地に楓多くありて紅葉の時も眺望あり

「三ツ子坂」 戒壇院の後より右へ下るなり

「青龍石」 西塔千手院の大巖に大巖あり龍の口をあきたる形に似たり此前に至れば人多く死す千手院の靜觀僧正此石頭に座して一七日加持し給へば忽然として黒雲覆ひ山谷震動し岩石くだけ散りしなり夫より祟なしとぞ宇治拾遺に見えたり

「三尊石」 横川に至る道の傍に大岩三ツあり此所魔

都名所圖會卷三終

明治四十三年十月二十五日印刷
明治四十三年十月三十一日發行

都名所圖會卷一

著作權所有

編輯者
發行所

東京市京橋區南傳馬町二丁目
葵文會

代表者
林縫之助

正價金七拾錢
郵稅金拾貳錢
總發行所東京四番

印刷者
東京市京橋區南傳馬町二丁目十二番地
會社 吉川弘文館

代表者
吉川半七

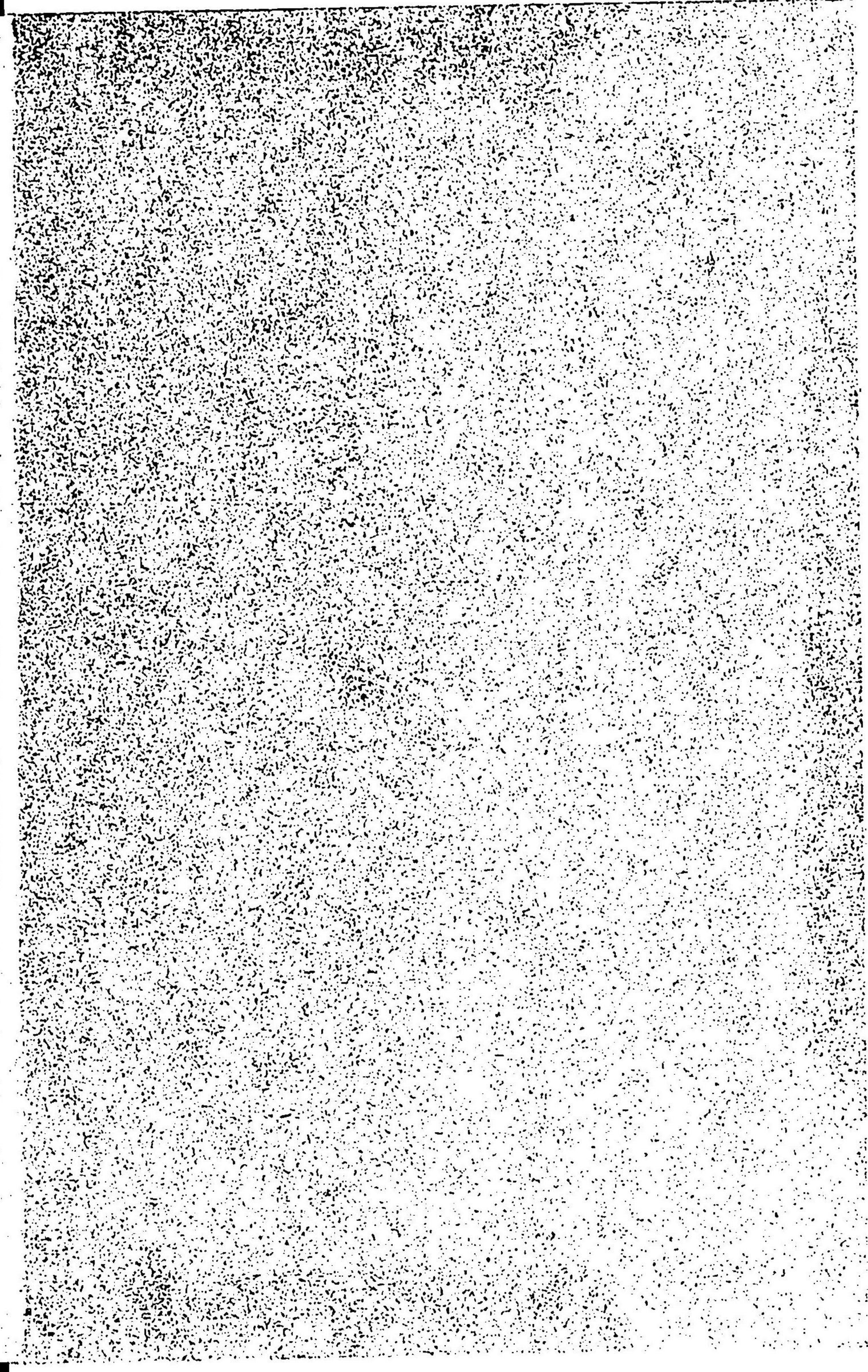
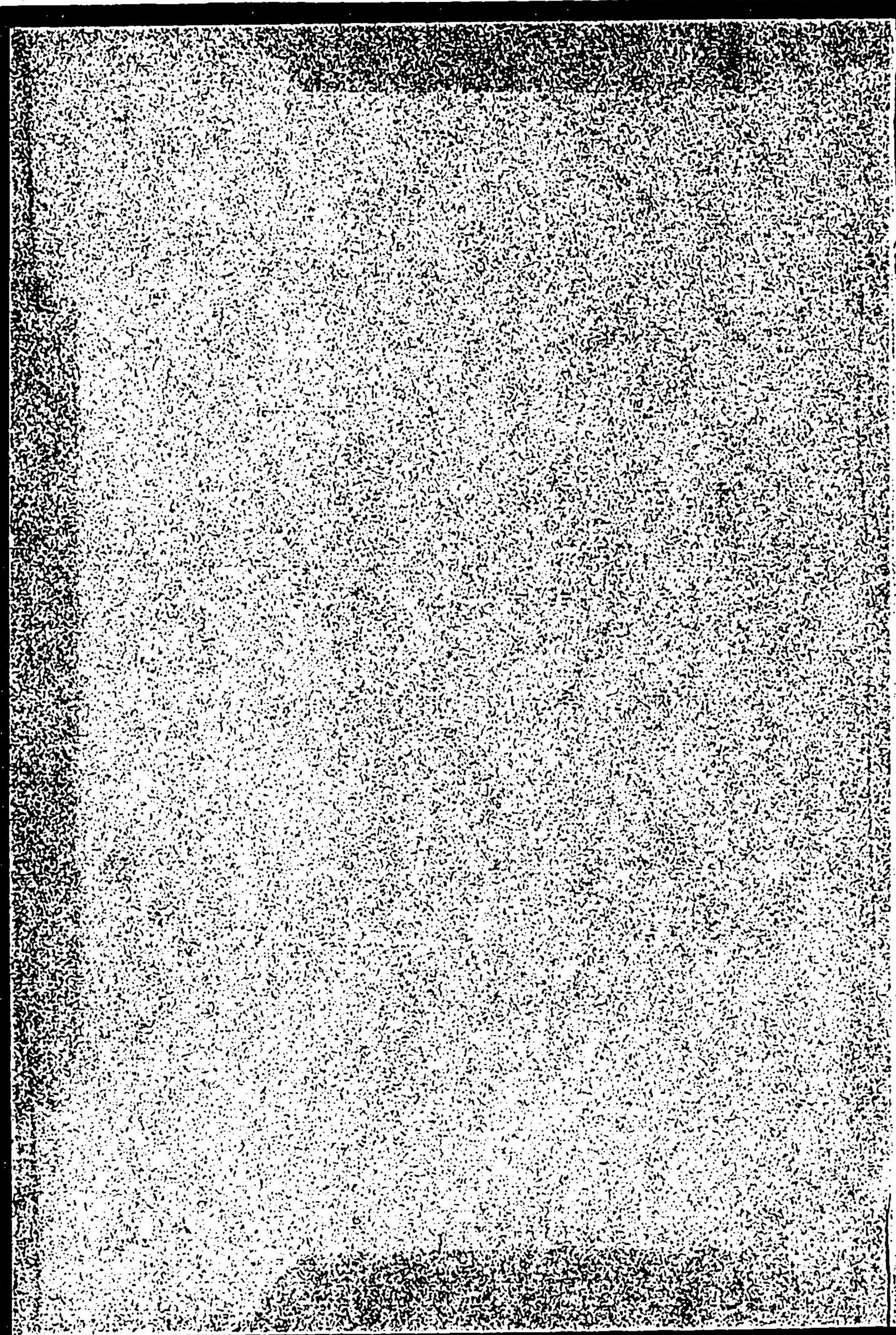
印刷所
新井電新堂

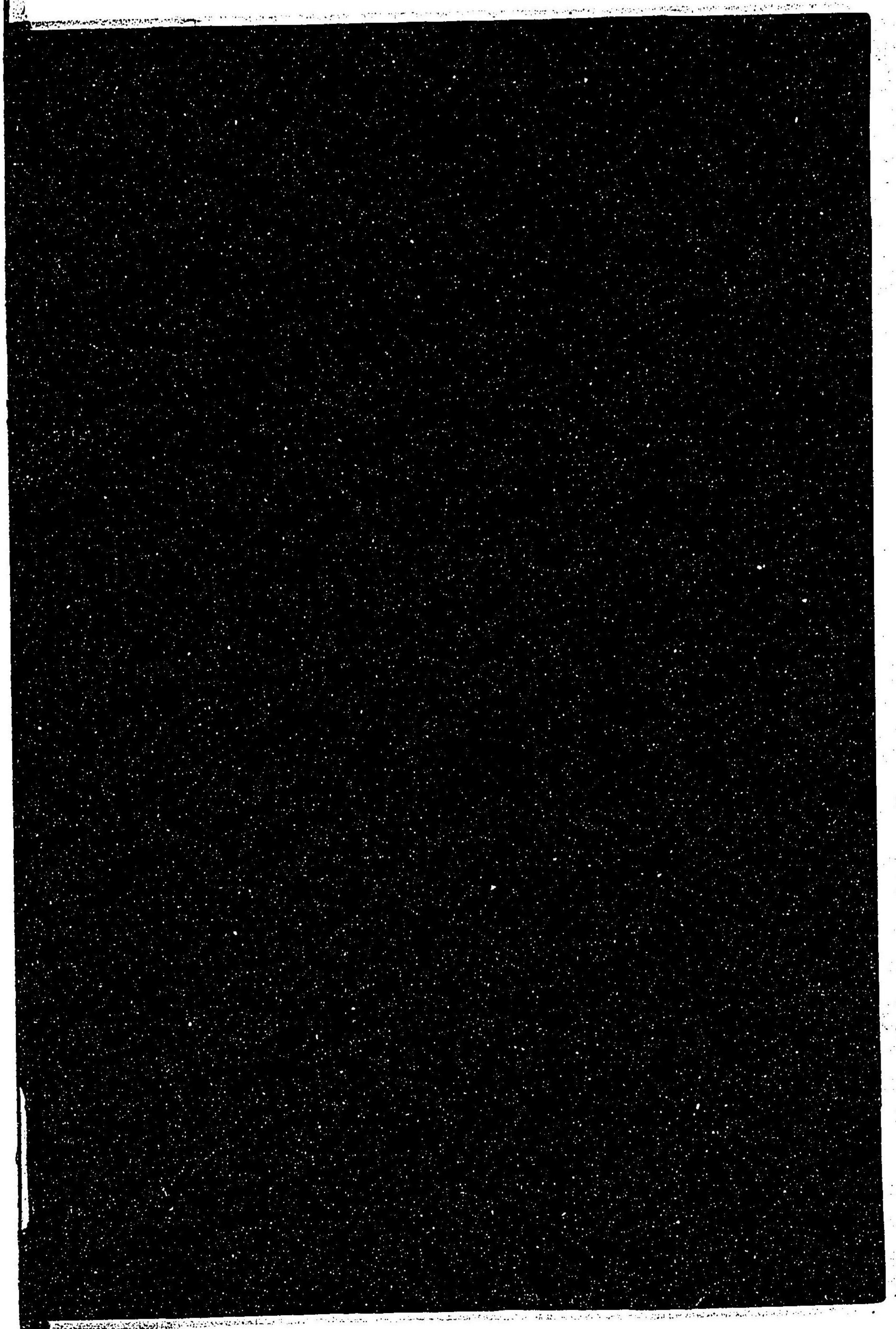
發行所
會社 吉川弘文館

電話本局九七七番

1963

DATE	DESCRIPTION	AMOUNT	BALANCE
1/1	Balance		
1/2	...		
1/3	...		
1/4	...		
1/5	...		
1/6	...		
1/7	...		
1/8	...		
1/9	...		
1/10	...		
1/11	...		
1/12	...		
1/13	...		
1/14	...		
1/15	...		
1/16	...		
1/17	...		
1/18	...		
1/19	...		
1/20	...		
1/21	...		
1/22	...		
1/23	...		
1/24	...		
1/25	...		
1/26	...		
1/27	...		
1/28	...		
1/29	...		
1/30	...		
1/31	...		







025684-001-8

330-12

都名所図会

秋里 籬島(湘夕) / 著

1冊

M43-45

ADC-3207



